

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

2025 JAN.

第 260 号

学校長からのメッセージ

新年おめでとうございます。皆さんは新しい年をどのように迎えられたでしょうか。私は毎年、その年にあった心に残ることを書き並べます。嬉しかったこと、辛かったこと、さまざまなことを思い出し、振り返り、新しい年を迎えます。

◆嬉しかったこと

昨年の嬉しかったことの筆頭は、私が家に帰ると2歳の孫が両手を広げて飛び込んでくることです。それは正に至福の時で、その瞬間を求めて急いで帰る日も多々ありました。

それともうひとつ。秋に家の天井照明をダウンライトに変えたのですが、電気工事に来たのが、なんと数年前の卒業生でした。偶然の出会いに2人して驚き、そして彼が先輩と思われる人と共にてきぱきと作業をする様子に感動しました。それは天井にあけた小さな穴に太い電線をいれ、手探りで2mほど離れた他の7個の穴から次々と引き出していく難しい作業でした。卒業後、就職先から彼の良い評判を聞いていました。その後資格をとって、今の会社で頑張っている彼。「にのちゃん(二宮教頭)には本当にお世話になった。妹もYMCAの卒業で兄妹でお世話になりました」と照れ臭そうに話す彼にすっかり社会人になったととても嬉しく、誇りに思いました。

◆辛かったこと

辛いことやストレスで眠れない夜もありました。「このままだと、うつになるかもしれない」と感じることもありました。そうなる可能性は誰にでもありますから、そんな時は意識して気分転換を図り、また神さまを思い出しました。「試練は希望につながる」の聖句を思い出し「神様はわかってくださっている、必ず抜けられる道があり、これ以上のしんどさは与えられないだろう」と思い、祈りました。

◆大切にしたいと思ったこと

「笑顔といつも機嫌の良い大人がそばにすることが子どもには最良である」。昨年、発達支援の研修で聞いたこの言葉が強く心に残りました。これは職場でも家庭でも言えることです。今年も「笑顔で、いつも機嫌の良い大人」でありたいと願っています。皆さんにとって幸せな1年となりますように。

(校長 鍛冶田千文)

わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということを
(ローマの信徒への手紙 5章 3~4節)





今月の聖句

「わたしにつながっていなさい。

わたしもあなたがたにつながっている。」

(ヨハネによる福音書 15章4節)

先日、犬の散歩で公園に行った時、そこでお母さんと男の子が喧嘩をしていました。お母さんはもう帰ろうと言っておられ、男の子はまだ遊びたいと言っています。するとお母さんが、「ほな、あんたはずっとここで、遊んでたらええわ!」と言って帰っていかれました。一人残された男の子は、何やら呟きながら、一人滑り台で遊んでいます。近くに寄ってみると、「いいもんね。一人でも楽しいもんね。」とそんなことを呟いています。でも、その言葉とは裏腹に、男の子の顔はちっとも楽しそうではありません。そのうち、その呟きが涙声に変わり、男の子の目からは涙がこぼれ出しました。するとそこにお母さんが戻ってこられ、今度は優しく「帰ろうか」と声を掛けると、男の子は素直にうなずいて帰っていきました。

そんな親子のやり取りを見ていて、私は人間と神様との関係を考えさせられました。「神様なんかいなくても、神様なんか信じなくても、一人でも楽しく生きれるもんね!」と強がっているながら、孤独や不安や悩みを抱えて歩んでいる人がどれだけ多くおられることでしょうか。そんな一人一人に神様は、一緒に歩いていこうね、と声を掛けてくださるのです。2025年も神様と一緒に歩む一年となりますように。

(日本基督教団河内長野みぎわ教会 福島義也牧師)

